

犯罪や事故のない町へ

「安全・安心まちづくり」
益城町集会



「からいも劇団」の寸劇が会場を笑いの渦に

訴えました。

集会では、住永町長の主催者あいさつの後、御船警察署の勝守俊夫署長が、最近の全国的な犯罪傾向や昨年一年間の管内での犯罪、交通事故発生状況について説明しました。また、熊本県消費生活センター課長補佐の石原堅志氏が「悪質商法からだまされない！」という演題で講演しました。講演では、県内での最近の悪質商法の現状を説明し、特に苦情相談の多い「下水道施設の清掃」や「ふとんクリーニング」等の訪問販売などを例に挙げ、その対処法をユニークに語られました。

明るい町づくりを目指すためには、犯罪の防止と交通事故撲滅が最重要課題です。今、一人ひとりの力でこれに取り組まなければなりません。

1月29日、交流情報センターで「安全・安心まちづくり」益城町集会が行われ、町嘱託員、老人クラブ、婦人会、生活・交通安全推進協議会等各種団体から約200人が集まりました。これは、今なお発生している振り込め詐欺や悪質商法、また、交通事故や街頭犯罪から町民を守り、一人ひとりが安全で安心して暮らすことのできる町づくりの実現を図る目的で行われました。

オープニングとして、町男女共同参画社会推進懇話会の「からいも劇団」による寸劇があり、ユニークな熊本弁を駆使した劇は会場から大きな笑いを誘いました。そして、男女とも個性を大切にし、お互いの良い所を認め合い、明るい社会づくりを



各種団体から200人が集まった集会風景

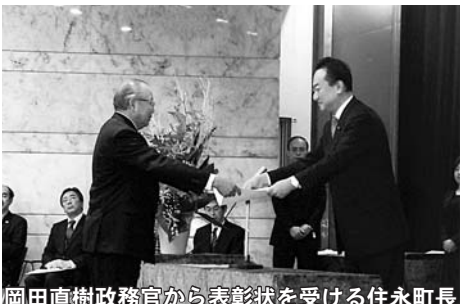
国土交通大臣賞を受賞

町公共下水道事業

1月30日、東京の国土交通省で、飯野地区における本町の下水道施工の取り組みが認められたことにより、国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）を受賞し、その表彰式が行われました。

現在、町が平成18年度から飯野地区の下水道整備を行っています。それは、下水道本管は、従来は地中に埋設するのですが、各受益者が現在利用している排水管の放流先周辺の水路に設置するというもので、管渠の露出配管と呼ばれています。この工法が高く評価され受賞となったものです。

町では今後もこのような発注者や受益者にとって、経済的に有利となる工法については、必要に応じ採用していきたいと考えています。



岡田直樹政務官から表彰状を受ける住永町長

本格テニスコートが完成

町総合運動公園テニスコート落成式

2月11日、総合体育館横に総合運動公園テニスコートが完成し、その落成式が行われました。

このテニスコートは、昨年2月に着工し、総面積が3,648㎡で、6面の人工芝のコートです。ナイター照明も完備し、総工費1億6400万円をかけ、今年1月に完成しました。

式には、町関係者や町議会議員、町テニス協会、町ソフトテニス協会、学校関係者など約100人が集まりました。住永町長が「この総合運動公園内に町民待望の立派なテニスコートが完成しました。健康増進のために大いに利用してください」とあいさつ。また、関係者によりテープカットが行われ、落成を祝いました。

式終了後、出席者が新しいコートで感触をつかむように練習し、心地よいボールの音を響かせていました。



テープカットで落成を祝いました。